地方自治ここにあり　首長インタビュー

小さな自治体だからできる 子育て・教育のまちづくり コンパクトビレッジへの挑戦

すさみ町長　岩田　勉さん

岩田勉町長

急激に進む人口減少と少子高齢化。地域経済を支える第一次産業をめぐる危機。そのなかで地域に住まない、地域外に働きに出る、職住分離の若い世代の増加が、近年各自治体で目立っています。住民がふるさとに誇りをもち、安心して暮らせるまちづくりをどのように実現していくのか――。町政担当2期目に入ったすさみ町の岩田勉町長にお話を聞きました。聞き手は、本研究所の鈴木裕範理事長です。

東日本震災直後に町長に

鈴木：4月の統一地方選挙ですさみ町長に再選をされました。きょうは、2期目の岩田町政についてお話を聞かせていただきます。まず、1期4年間を振り返ってくださいますか。

町長：はい。町長に就任したのが、2011年春東日本大震災が起こってまもなくでした。震災後、南海トラフ地震による津波が話題になり、内閣府が発表した津波高が、和歌山県で一番高かったのがすさみ町で、20メートルでした。1年後に和歌山県から発表された数字も19メートルということで、災害対策が急務になりました。町民の不安を払拭することが、第一ということで、行政がものをつくる前に、災害に対する意識改革を進めるために全地区で地区懇談会をしました。1期目は防災対策が大事やったです。将来を見据えたまちづくりはどうあるべきか、防災とまちづくりを兼ねた施策に取り組みました。

鈴木：災害に強いまちづくりは、今後も継続して取り組む重要なテーマですね。

町長：そうですね、防災対策は、終わりがないと思うんですね。犠牲者ゼロを目指した施策をずっと続けていくべきであると思います。それと、少子高齢化対策です。今、1年間にね、大体100人ぐらい人口が減ってる、若い人が減って高齢者が残ってる。若い人が、残るためにどうしたらええかという施策を進めていくべきであると思っています。すさみへ住むことがプラスであるということ、マイナスの部分をいかに消していくか、プラスをいかに伸ばしていくか、これが重要になってます。

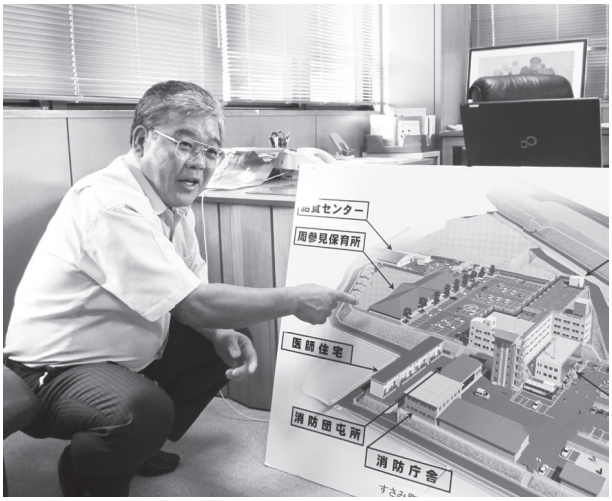
コンパクトビレッジへ いまが町づくりの好機

鈴木：昨年来、地方消滅論が話題になっています。日本創生会議の人口予測調査では、すさみ町は和歌山県内では高野町、紀美野町に次いで消滅の可能性が高い、

わかやま住民と自治
発行／和歌山県地域・自治体問題研究所
和歌山市湊通丁南1丁目1-3　名城ビル3F
TEL･FAX 073-425-6459
jichiken@crux.ocn.ne.jp　2015年10月号
2015年9月25日発行　第272号　（月300円）

目　次

地方自治ここにあり首長インタビュー
すさみ町長　岩田　勉さん…… 1
2015年６月13日総会･シンポジウム②
「地域に住む　地域を創る
～『地方消滅』論のなかの『地域創造』～」in 田辺 …… 5
2011年12号台風でみた共助のすがた
田辺市本宮町萩自治会長　横矢　隆久 …… 8



町づくり構想を語る町長

と予測されています。２０４０年に、若年女性の減少率が78・5パーセント、大変厳しい数字です。

町長：まあ言うたら課題をね、はっきり示していただいたということになる思うんですよ。悲観的には捉えてないですね。ならんような対策をこれから皆と考えたらええんではないかな。

　人口はすさみだけが減るんではなしに、日本全体が少なくなってくる、もう必然だと思うんです。

　やっぱり、幸せと感じるというんはね、自分の町に対して誇りを持ってもらうということだと思う、自信と誇りというんかな、すさみ町というのはいいとこやったんやなて、自分の生まれたとこを見直していただきたい。

　すさみ町の面積は１７４平方キロあるんですよ。僕はコンパクトな町をつくるべき、コンパクトシティではなしにコンパクトビレッジを、といういうことを申し上げてるんです。今がね、その基礎づくりのまさにチャンスなんですね。なぜなと言うたら、先ほど申し上げたように、災害対策で国がいろんな制度をつくっていただいた、すさみ町は和歌山県で一番高い津波が予想されてる、防災対策に対して頭を使ったらいろんな補助事業もあるし、いろいろとできる。それと地方の時代といわれているとき、高速道路ができた、この時期を逃して将来のまちづくりの基本、基礎はできないと思います。

　それで将来、20年先、30年先を見据えたコンパクトな町をつくりましょうよということでね、３年前から始めました。高速道路インターチェンジの近くを造成して、津波が来たとき被害を受けると予想される公共施設を高台へ移転するという、そんな絵を描いたんですね。コンパクトビレッジの拠点ですね、津波が来ない場所で、20年たったときには、ここを拠点にコンパクトなすさみ町が残るようにしていきたい。

鈴木：コンパクトビレッジですか。

町長：不便であるけれど、ふるさとをじっくり見れて、人とのコミュニケーションがゆっくりでき、今失われているものは、田舎へ来たらありますよって、それをね、大事にしたいなあと思います。やっぱり、人間が本来持っていたものがここにあるという、そんなとこはあってもいいんではないかなと思っています。

鈴木：人が住み、地域社会が成り立つ、町ですね。

町長：僕らの先人は自立し、自分の仕事に誇りを持ってやってきた、その気持ちを考えたら、そう簡単にすさみ町を消すわけにはいかん。残したいアイデンティティの問題になってくるんかな。

　今が何もないんではないんです。今もあるのに、なぜ創生なていうね、戦後ずっと田舎の人は中央のために尽くしてきたんです。だからこの時代になって、やっぱりもう１回、昔の力を取り戻す、誇りも自信も取り戻すための再生事業をやってくださいよと、共に中央と地方とが力を出し合って知恵を出し合って、やりましょうよ。田舎を見捨ててね、中央だけで日本の経済、いろんなことが成り立つんやったらいいですけどね。やっぱり、田舎あってこその中央です。

すさみ町曲利の山村集落

他市町から通勤する、職員が増加

鈴木：その通りだと思います。しかし、人口の将来予測は２１００人ぐらいと厳しい、ですね。

町長：そうなる可能性は大きいと思いますね。内輪の話したらええんかどうかわからんけど、役場の職員がよそへ出ていくんですね。ほかの町から通勤するように、若い職員がね。これがね、これが現実なんですね。この現実を、しっかり見据えた施策をしていかなあかん。若い職員の中で、なぜ出ていくんなということを、１回、職員組合などで話し合ってくれよというてね、すさみへ住んでも、そんなにハンデはないでとい

う、そんな施策をせなんだら、どんどん若い人が出ていく、ものすごうね、大変なんですね。

いま、すさみ町の職員は、正職員１２０人ぐらいあるんですね。内訳は病院50人、保育所に20人、その70人引いたら、ここに50人ぐらいしかないんですね。そのうちここで10何人、よそから通てきたらね、もし夜、退庁後に災害が起こったときに、ここにどんだけ、職員が来るか、15人来るかな。

海が見える道の駅すさみ

消防団が10人、そんなんで何か対応できますか言うたら、できませんよね。

僕ら若いときには、役場の職員は１６５人あったんが、今は１２０人しかないですね。ほいで、忙しいとこへ新たな仕事として地方創生の大きな仕事を持ってきやれたんで。

鈴木：うーん、なるほど。

町長：過疎というんはですね、人口減るのも怖いですけどね、人材が減ってしまうんです、いろんな中で。それが一番怖い。大学でいろんな勉強した人は皆よそへ行ってしまう。

鈴木：若者が残るふるさとづくりに、どう取り組むか。

町長：大変ね、厳しい、働く場所と住む場所と分けたらええんではないか。分けざるを得んと思う。現実の問題として、高速道路のインターに道の駅ができて、信濃路さんが指定管理を受けていただいて、経営してくれるようになりました。ほいだらね、あそこで、20数人の募集をやったんです。そしたら、若い人が来んのです、１人か２人しか。ほかは皆、年配の方が応募してくれるんですね。なぜなて聞いたら、今の若い人はね、すさみに住んで、家と職場を往復するんはあんまり面白くないんかな、すさみで募集してもなかなか来んですね。企業誘致しても、今の若い人たちが歓迎してくれるような企業ってなかなか来んでしょう。本当に若い人が歓迎してくれるような職場てなかなかね、つくれん。そんな意味で、田辺へ働きに行って、ほいで住むのは、すさみというような施策が必要かなあと思いますね。

すさみ町が、よそと違う、たとえば田辺市とかと競争できるのは、子育て環境とか、教育の内容ではないかなと思うんです。

子どもの保育・教育を充実

鈴木：子育て、教育の町ですか。

町長：そうです。過疎をね、ハンデやなしにアドバンテージに使おらよと。今、保育所の先生方と話やってるんですけど、僕は、３６５日開設せえて、保育所をね。日曜日、祭日、開設してもどんだけ需要があるか分からんけど、でも、すさみは、子育てを大事にしてますよって。それと、今でも、ほんまは就学前しか医療の補助がないんですね、県の制度では。それを中学校まで町が補助しますよって医療費の。ほいで、来年からはね、高校までしたいなあと思てあるんです。

それと、すさみから高校へ通学する場合、田辺まで、と串本までとあるんですね、上富田に熊高もありますけど、大体、年間９万円ぐらいの定期代がいるんですよ。この定期代ね、半額ぐらい補助してもええん違うかな、４万５千円か５万円とか。５万円にしてもね、60人で、３００万ですよ。子育ての一助になればというんと、その他にすさみっこ誕生祝い金てのもあるんです。

それともう１つ、保育所から英語教育しませんかて。ＡＬＴね、まもなく小学校が２つ、中学校が１つになると思うんです、統合するとね。過疎やさかいできるという政策をやろやよと。

周参見小学校

鈴木：若い人が、ここでがんばれる、保育、教育は重要です。地方創生の総合戦略の柱ですね。

高速道路南伸　国道42号を活かす

鈴木：すさみの現在の産業構造は、第１次産業が50パーセントぐらいですね、漁業と林業と農業がある、観光がある。漁業を中心とした６次産業化、内部資本を

漁船の泊地示す

生かした仕事づくりを、どうお考えですか。

町長：正直申し上げまして、去年のカツオの水揚げ量は、従来の20分の1ぐらいなんですね。スルメイカもそうです。イセエビもそうですね。従来、漁業を支えてきたものが崩れてきているいうことはもう確かなんです。取り巻く状況が全然、違てきた。中国も台湾もフィリピンも、皆、カツオをやり出したということでね、それも網でやり出した。将来見据えたときも、なかなか僕はそれは難しいと思いますね。随分、漁船が減りました。漁業者も減ったんですね。それで、どうしたらええんかなって考えて、もう、ものをつくろらよということで、漁船の泊地でウツボの養殖をする、ウツボは、今、需要がものすごくあるんです。あれはね、捨てるとこないですね。身は身で骨は骨、皮も利用できるしね、新たに養殖場つくったら大変やけど、泊地利用したら簡単にできますんで、それでしたら、女性もそこでつくだ煮をつくったり、身をそいだり、乾したり、割ったりというね、そこでいかに手を加えるかです、ウツボはすさみの名物なんです。ナマコもね、同じ水槽でできるんで、それを1回やりたいなと思ってんです。新たにつくるんやなしに、一定の役割が終わったものに次の仕事をさしてやるというようなね、そんなことを。ほいて、ルアーの釣り客の誘致です。

鈴木：高速道路がすさみまで延長されました。観光、地域産業への波及効果が期待されます。

町長：すさみまで来る人は多分増えると思うんです。どう生かすかということになってくると、観光面しかないと思うんですよね。42号を何とかしましょうよということになると思うんです。景色を見て、特産品を食べてもらう。来て見て知ってくれて食べてみてくれよという、その施策しかないのと違うんかなと。だから、高速道路から42号へ下ろすという施策、サイクリング、ツーリング、ウォーキング、世界遺産があるしジオパークもある、県立公園が今度、国立公園になりました。

鈴木：観光産業の振興ですね。

町長：そうです。

公共交通の基盤を整備

鈴木：最後に、2期町政で実現したいことは何ですか。

町長：今、地域公共交通会議を起こしてね、交通体系の切替えしやるんです。どんどん高齢化していく中で、路線バスだけやってね、そこ行きなさいというんではなしに、一部、デマンドもやってるんですよね。町内、コミュニティ、それからデマンドと、路線とうまいことつなげていって、この小さい町に住めるような交通体系を是非つくりたい、これはもう2期目で絶対やりたい。やっぱりね、交通体系をちゃんとしとかなんだらね、町の基礎はできんですよ。今年で何とか公共交通会議を終結させてね、もう来年からでも実施したい。

　これと合わせて両輪で将来のコンパクトな集落、コミュニティづくりを進めて、安全安心で誇りを持って暮らせるようにしたい、将来の町づくりを考えたい。

鈴木：公共交通の整備の問題で最大の柱は、どこになりますか。

町長：高齢化が進んでいくときに、便利な交通体系を本当にドアツードア的なことにしなければ駄目だと思うんですね。小さなってきたらね、サービスは厚くできると思うんですよ、福祉のサービスにしても。病院建てるときに、地域包括支援センターも全部ここへ一緒にやります。医療、保険、福祉が一緒になって４０００人、４５００人の町民に目が、神経が行き渡るようにできると思います。どの人がどこに住んでいてどんな状態かちゅうね、それが全部、ほいで、小さい病院でも、大きい病院と連携して、身の丈におうたまちづくりを目指してがんばっていきたいなと思います。

鈴木：そのためには一人一人が、官も民も自立して、自治の精神を持つことが大事です。

町長：それね、一番の務めですね、やっぱり人の力をいかに行政へ反映さすか。町民と協同しょうらと、参画してくれよという、住民力を引き出すのは大事なことと思います。

鈴木：注目してます。今日はありがとうございました。

町長：こちらこそ、ありがとうございました。